OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

商工經濟研究　第一卷　第三號　（大正十五年四月十五日發行）

歐洲に於ける中世ギルドの起源に就て

松　崎　實　次

第一　ギルドの字義

ギルドGildとは組合のことであるが此言葉はチユートン語系の中に見出される言葉であつて、ラテン語系にはないといふ事は一般に認められて居るが然し之を以てギルド制度がチユートン民族の獨占的制度であつて、他民族の間に之を見ずと斷定してはならぬ。ギルドは一つの時代から他の時代に移り變る時特に産業の經營が小規模から大規模に移る時に起る一制度に過ぎぬから英國に於ても大陸諸國に於ても其他如何なる民族に於ても此種の變遷があればギルド制度は生れるのである。ギルドは現代英語ではGild又はGuildと書き獨逸語ではGildeと書くが、英語では前者が普通に用ひられてゐる。中世紀に於ては英國ではGield, Geld或はGyldなどとも書いたこともある（Toulmin Smith, English

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

Gild. London MDCCCLXX, p. xix) 然しgildなる文字の起源は何國の如何なる文字にありや又其意義如何といふ問題に至つては學者の見界は一致してゐない。今其二三の例を擧ぐればウエヂウツド Hensleigh Wedgwood の研究によればギルドなる言葉は丁抹語の Gilde なる語より發し、祝宴又は團体 Feast, banquet, or Corporation なる意味を有し、低獨逸語の Gilde は饗宴を開かんとして或る定められたる日に集合して來た市民團体 Society of burghers を意味したのである。ギルドといふ文字は初めには祝宴を意味してゐたが後轉じて祝宴をする爲めに集つた人々の團体或は組合 Company を意味するに至つた。之と同じ様な道行きで Company なる語も最初には「共同飲食をなす爲めに寄合へる團体」"a number of persons eating together" を意味してゐたが後轉じて廣義に用ひられ、單に飲食せんが爲めに集まれる團体を意味する計りでなく目的如何に不拘共同目的の爲めに作れる團体を意味する様になつた。此點はハイネの字書にギルドが「共同飲食の爲めの寄合」の意より轉じて「共同生活の團集」の意に用ひられたとなす説（經濟大辭書七三九頁第一段）と一致するものである。ギルドは獨逸語にて支拂 Payment を意味してゐるGeldなる語より出たと説く者もあるが之は誤りであつて寧ろウエールス語の Gwyl, Gwylio ブリトン語の Goel, Gouil 又は Gouéliaなどの言葉から出たとする方が正しいらしい。Gwyl, Goel, Gouil などは宴會又は祭日を意味し Gwylio は注視する、期待するなどの意味があり Gwyled は見る Gwylad は祝宴を開催するの意である。而して Gouélia は休日にするとの意或はグール

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

語で宴會、祭日、定期市又は市場などの意を表はすに Feil といふ字があるがギルドの字源は此 Feil であるとする學者もある。英蘭と愛蘭との間は愛蘭海で其中にマン島 Isle of Man といふ小さい島がある。其住民が使つてゐる言葉をマン語と言つてゐるが其マン語の Fealley から出たとなし、又愛蘭語の Feil 又は Feighil に源を發し、此二語は祭日の前日又は祭日の當日を意味するのであるとも説いてゐる。中にはラテン語の Vigilioe がギルドの字源ではなからうかと推論するものもあるけれども既に最初に述べた如くギルドなる文字がラテン語系にはないといふ説が確實となつてゐる以上此推論には賛成が出來兼ねるのである。右の外和蘭語の Gulde なる語も亦祝宴、組合等の意味あり、ゴート語の Dulths, ババリア語の Duld とも深い關係があるらしい。而して Dulths は祝宴を Duld は祭日に開かれる定期市、市場などの意に用ひられ、Dulden は儀式を擧げるの意である。(Lujo Brentano, on the History and Development of Gilds p. lxi)

註 ブレンタノの右の論文は Toulmin Smith, English Gilds の中に收められてゐるけれども、別に單行書としてロンドンで一八七〇年に發行されてゐる。之はブ氏が自ら英國に滯在して研究した結果を發表したものでギルド研究者には好參考書である。又彼は別に獨逸文で Die Arbeitergilden der Gegenwart. Erster Band: Zur Geschichte der englischen Gewerkvereine Leipzig, 1871 を出してゐる。併せ讀むべきである。

センチユリー書典にはアングロ・サクソンのギルドは Gildan (to pay) なる動詞から出たのである。蓋し團体に屬する各員はギルドに必要なる費用を分擔する義務があつて、之を支拂つたからである。其

後團体に屬する人々が會合する場所をギルド又はギルドホール Guild Hall と言ふ樣になつた旨を記してゐる。此外ギルドは Gielt であつて貢献 offering, contribution, tribut を意味するとなすものもある。之蓋し神に祭り、祭日に神に祈る爲めに酒宴を催すは即ち神に貢献を爲す意であると解するのであらう。ボスウオース Bosworth の如きは此解釋をなしてゐる一人である、彼は此外にも貨幣の支拂 Payment of Money 賠償 Copensation などの意味もあると言つてゐる (T. Smith, English gild. P.xix) 或は又團体共同の目的に支出を爲す爲めには平常より基金を貯へて置かねばならぬ。此基金を作るために團体員は寄附 Contribution をなしたのであるからギルドといふ字は又寄附を意味するとも解せられてゐる。(Charles Gross, The Gild Merchant. Oxford, 1890. p. 60)又ギルドは貨幣の意味であつて Geld, Gyld, Gieldなどと同一であると解する者もある。

以上述べた樣に字源及字義に就ては學者の說く所は區々であるけれども、諸税を綜合すれば要するにギルドなる文字がチユートン語系に屬してゐると言ふ事、支拂と貢献、祝宴祭日等の意味をもつてゐるといふこととは確實である。而して之等の意義から轉じて今日の組合といふ意に解せらるるに至つたと考へて差支へないものと思ふのである。

右の如くギルドなる文字が時代により國により種々樣々に書かれたけれども現今では英語では Gild なる文字が最も廣く用ひられ Guild 之に次ぎ其他の文字は殆んど排斥されてしまつた形である。而し

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

て商人ギルドをマーチャントギルド、ギルドマーチャント又はタウンギルド Merchant gild, gild merchant, or Towngild などと稱し、工業ギルド（或は親方ギルドと呼ぶ方可ならんか）をクラフトギルド Craft gild 或は單にクラフト Craft, 又はミステリー Mystery などと呼び、獨逸にては前者をハンザ Hansa 又はハンゼ Hanse と云ひ、後者をアムト、インヌング Amt, Innung 或はツンフト Zunft と稱して居る。

第二　ギルドの起源に關する諸說

歐洲の產業史上に於て、特に中世紀の產業史上に於て見逃すことの出來ぬ制度はギルド制度である。十二世紀以後に於ては英國でも獨逸でもギルドは經濟上盛に活動して、商工業の發達に寄與したことは少くない。而して經濟的方面に勢力を得るに及んで更に政治上にも力を注ぎ色々な爭鬪を重ねた結果遂には都市の政權をも掌握するに至つたことは歐洲經濟史を繙く者の直ちに知り得る所であるが、之等の點に關して詳しくは他日の機會に讓るとして、今茲には如斯重要なる意義を有するギルドの起源に就いて聊か論じて見たいと思ふのである。

抑々工業ギルドが商人ギルドから生れたといふ點については諸學者の見解は殆んど一致する所であるが、然らば商人ギルドは何所に起源を求むべきやといふ問題に關しては學者の研究は相當に進んで

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ゐるに不拘其解答多岐に亘つて歸一せず甲論乙駁の有樣で容易に解决を見ないのであつて或意味に於ては今日でも尙ほ未决の儘殘されてゐる問題であると見てもよい。かく諸説一致せざる所以のものは松崎博士に從へば「數百千年の後證跡既に隱滅して考據の便なき舊事蹟を考覈するに當りてや毫も怪しむに足るなしと雖も畢竟其講究すべき事体の至難なるに職由せずんば非ず」（松崎藏之助、世道と經濟一四二―三頁）である。されば次に只重なる學説二三に付てのみ簡單に述べることとする。

一、ヴイルダの鄕飮酒起源説

ギルドに關する論究はヴイルダW. E. Wilda以前にも澤山あつたけれども何れもヴイルダの右に出づるものはない。實にヴイルダは中世ギルドの研究家としては最も有名な學者で彼は彼以前の學者と違つてギルドを系統的に論究して之をよくまとめた所の最初の學者である。彼が一八三一年に公にせる「中世に於けるギルド制度を」（Wilda, Das Gildenwesen im Mittelalter. Halle, 1831）なる著述は本問題研究者の爲めには缺くべからざるもので、後世の學者例へばブレンタノ、フオーチユーン Fortuyn の如きも多く資料を本書に求めたのである。彼の說く所に依れば北獨逸民族の間にありては、家族或は血緣續きの家族の人々の間に、結婚、出產、死亡の如き重大な事件が起つた時には、家族の人々は自ら進んで何やかと世話をしたり、相談相手となつたり、式典の擧行や後片付などをする爲めに寄合つたもの

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

である。元來獨逸民族は飲を好む習慣があつたので吉凶を問はず事の起るを機會として酒宴を開くのが常であつた。一例を擧げると父が死亡して、其子が相續をする場合には亡父生前の友人や相續者自身の友達などが集つて宴會を催し、之等の人々が居並ぶ面前に於て、先づ相續者は父の生前の善良行爲に見倣つて自分も善良行爲をなし以て父の名を汚すことのない樣にする旨の誓をなし、續いて此所に集つた多くの友達も亦同樣の誓言をなしたのである。以上述べた樣な宴會は最初の間は家族の間に何か重大な事の起つた時にのみ開かれる風習であつたが、後には國家に何か重要事件の起つた時などにも之を催す樣になつた。例へば皇帝の即位式の場合の如きが之である。以上は何れも偶發事件を機會として開かれる所謂臨時宴會であるが、此外年一回催される大祭日にも大宴會が開かれ一般市民が之に參加することが出來るのであつて國民大會とも言ふべきもので、席上では重要事項を相談したものである。而して茲に集まる自由民は神に供物をする爲めに自分々々の欲する飲食物を携帶せねばならぬことになつて居る。此點から見て此宴會を供物宴會 (Sacrificial banguet. Opherversammelung) と言ふことが出來る。爾來此種の酒宴をギルドと稱する樣になり更に宴會に出席する人々の團体を再轉して飲食に限らず共同目的の爲めに寄合へる人々の團体即ち組合をギルドと呼ぶに至つたことは既にギルドの字義を述べる際に說明した通りである。乍然如斯宴會は單に北獨逸地方で行れた計りでなくスウエーデンでもノルウエーでも行はれたことはスカンヂナビアの學者サーガス Sagas の說明に依つて

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

て明かである。ヴィルダは之等の事實を見てギルドは右述べた樣な宴會から發生したのであると斷定を下したのである。

尙ほ茲に一言すべきは彼がゲルマン民族の酒宴からギルドを產み出すに至るに與つて力ありしはキリスト敎的要素即ち隣人を愛せよといふ主義再言すればキリスト敎博愛主義であると說いた事である彼曰く「ギルドはキリスト敎に連れて漸く發生したのである」と。"Die Gilden sind erst in Gefolge des Christenthums entstanden "Wilda, a. a. O. S. 66) 思ふにキリスト敎が南歐から北歐に傳はるに及んで北歐には在來の舊慣は依然として廢せらるる事はなかつたが更に之に加ふるに新しい風俗習慣も這入つて來た。何故キリスト敎徒が初めの間異敎徒の慣習を打破しなつたかと言へば言ふ迄もなく之れを急に破壞すれば反對者が續出してキリスト敎普及に妨げとなつたからである。だからキリスト敎徒が力を得其敎が普及するに從つて異敎徒の古い慣習が破らるるに至つたのは自然の理といふべきである。そこでキリスト敎の僧侶は僧院を中心として團体を組織し新しい風俗習慣儀式等を有する宴會を度々開いたのであつて、此團体には初めの間は俗人を入れず從つて宴會にも俗人を出席せしめなかつたが後には俗人をも加入せしむることになつたのである。(Brentano. Ibid. p. lxxii) 如斯キリスト敎の僧侶團体も亦後世のギルドの原型と見ることが出來るもので漸次之等が變化して商業的となりては商人ギルドとなり、工業上の職人親方の團体となりては工業ギルドに變遷していつたものである。之を

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

要するに彼はギルドの起源を異敎的要素たるゲルマン人の鄕飲酒の俗とキリスト敎的要素たる博愛主義との二元に求めたのであると言つてよい。私は前者を第一義的のものとして彼の主張を鄕飲酒起源說と名附けたのである。

以上述べ來つたヴィルダの說は其當時としては群を拔いて光彩を放つてゐた說であつて、何れの學者も皆之に服從してゐたのであるが、其後スミスToulmin Smithブレンタノ L. Brentanoグロス C. Grossなどが出で同問題に就いて新研究をなしヴィルダの說を縱橫無盡に批評駁論し去つて反對意見を發表するに及んで、漸く古への光彩を失つてしまつた。然しながらギルド研究上に於ける彼の功績は依然として殘され、彼が組織的に探究せる先驅者として尊敬すべきは恰も經濟學に於けるアダム・スミスAdam Smithにも比すべきである。

二、ブレンタノの家族起源說

ブレンタノ Lujo Brentano はヴィルダに次いでギルド研究家として名高い學者で前記せる如く其著「ギルドの歷史と發展並に勞働組合の起源に就て」On the History and Development of Gilds and the Origin of Trade Unions 及び「現代の勞働組合第一卷、英國產業組合史に就て」Die Arbeitergilden der Gegenwart, Erster Band: Zur Geschichte der englischen Gewerkvereine は最も有名である。彼は前書に

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

於て第一にギルドの起源に筆を起し第二に宗教（又は社交）ギルド、第三都市ギルド又は商人ギルド、第四に工業ギルドと發達の順序に從ひて説き而して第五に勞働組合を論じて筆を擱いてゐる。今茲に關係の深いのは只第一のみであるから其大意に就いて述ぶればブレンタノはヴィルダの説に反對して曰くヴィルダもハルトウィッグ（ギルド制度の起源に關する研究 Hartwig, Untersuchungen uber die ersten Anfange des Gildewesens）も共にギルドの起源につきては詳細なる研究をした有名なる學者で尊敬に値するけれども、而し彼等はギルドの本質が如何なるものなるかを明瞭にしてゐない。(Brentano. Ibid. P. lxiii) 又ギルドと家族との關係も充分に述べて居らぬ。只臨時に催される郷飲酒の俗や年一回の大祭日に開かれる大宴會よりギルドが發生したとする説には反對せざるを得ない。ギルドの本質は人々が互に兄弟分關係 Brotherhood, Brüderschaft を作つて親密となり、組合を組織して組合員相互保護救濟をなすにあるのであるが、如斯ことはヴィルダの説く郷飲酒の俗や大祭日の宴會とは何等關係のないことであると一矢を放つてゐる。而して彼は昔の家族生活の狀態と英國の古い三つのギルド即ちアボッツブリーギルド Abbotsbury gild エクセーターギルド Exeter gild 及びケンブリッヂギルド Cambridge gild の規則の內容とを比較考究した結果兩者の間には單に類似の點があるのみでなく、全く符合する所が多いので、遂に彼はギルドは家族より其源を發したのであるとの説を立てたのである。今次に右三ギルドの目的と規則とを見るに、

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

第一、アボッツブリーギルドの目的は其規則に依つて明かなるが如くに組合員 Gild-brothers の中に貧困、病弱な者があれば、之を養ひ、死者あれば之を埋葬し宗教上の儀式を擧げ、死者の靈に對しては祈禱をなすにある。而して毎年聖ピーター祭には一堂に會して共同禮拜をなし宴會を催すことになつてゐる。此日には組合員は燒麵麭を寄附して之を貧者に分與しなければならぬ。宴會席上で無禮な行爲をなしたる者はギルドから處罰せらるるのみならず、無禮を加へられたる人に對しては賠償をなさねばならぬ。又組合長其他の高級役員から何か役目を命せられたる場合に其責任を果さなければ嚴罰に處せられるのである。

第二、エクセーターギルドの目的はアボッツブリーギルドの目的と殆んど同じであるが只禮拜祈禱をなすことを主として居た點が異つてゐる位である。今其規約の内容を槪觀すれば組合員は一ヶ年に三回會合を催すものとす。即ち第一回は聖ミケル祭、第二回は聖メリー祭、第三回は復活祭以後のオールハローー祭當日に開き各組合員はビールを二セスター宛、特に青年は一セスター宛と蜂密一シート宛を持寄らねばならぬ。而して牧師をして祈禱文を二つ讀ましめるのである。何故祈禱文などを讀ましめるかと云へば一は現存せる人々の幸福を祈らんが爲めに他の一は死者の靈を慰めんが爲めである又組合員は讃美歌を歌はねばならぬ。之も祈禱文と同様に一つは生存者の爲めで他は死者の爲めである。若し組合員が死去すれば組合員は讃美歌を六つ歌ひ、且つ五ペンス宛醵金することになつてゐる

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

又組合員が火災に罹つた時には各員は一ペニー宛出して罹災者を救助せねばならぬ。若し組合員にして一日業務を怠ることがあれば罰せらるるのであるが第一回目には讃美歌を三つ歌ひ、第二回目には五つ歌はねばならず若し三回も怠業をなして罰せらるれば最早や彼を組合から保護してやらぬことにする。但し病氣の爲めとか或は其主人の必要の爲めに仕事をすることの出來なかつた場合には正當なる理由あるものとして何等の處罰を受けぬのである。若し又醵金をなすべき日に之を爲さざる時は倍額を徴收せらる。組合員にして他人に欠禮をなしたるものあれば、被欠禮者に對して三十ペンスを支拂ひて謝罪せねばならぬ。(T. Smith, English gilds. P. xviii) 而して禮拜祈禱など宗教上の儀式を終れば必ず宴會Meal in Commonを催すことになつてゐた(L. Brentano, Ibid. p. lxvi)

第三、ケンブリッヂギルドは以上二ギルドとは多少異つた點がある。即ちギルドに加入せんとする者は、ギルドの氏神に向つて他の組合員と兄弟分關係を作つて其實を擧げる樣に努むる旨の誓をなすのである。ケンブリッヂギルドの規定の中にも組合員の病氣、死亡等の場合に於ける補助救濟に關する條項はあるけれども、然し之は前記二つのギルドの如く重要なる規定ではなくて、其最も重きを置いたのは犯罪に關する規定である。今其一斑を窺へば「若し一組合員が犯罪爲行をなせば全組合員は其責任を負ひ、同一の運命に服さねばならぬ」"If One misdo, Let all bear it; Ler all share the same lot;"此條項は最も重要なるものであつて之が爲めに組合員は銘々總べての行爲に注意し、助くべきは

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

助け、勵ますべきは勵まし常に正義を重じ以て過失なからんことに之れつとむる有様であつた。若し組合員中に救助を要する樣な問題が起つて、其救濟方を依賴されたる役員は最善を盡して之が救濟に努力せねばならぬ。若し之を忽にすれば直ちに處罰せらるるのである。若し又組合員中盜難に罹つた者がある時は組合員全部が一致協同して犯人を搜索し賠償を爲さしめるのである。若し組合員が殺人罪を犯して賠償金を支拂はねばならなくなつた時には組合員全員が其責に任じ支拂を完うせねばならぬ。然しながら殺人者が何等正當なる理由をもつてゐない場合例へば他人から爭鬪をいどまれたこともなく、又復讎すべき義務もなく只單に怨恨を晴さんが爲めに殺人行爲をなした場合の如きは犯罪者自ら全責任を負ふべくして、他の組合員は何等責任を負擔しないのである。又若し組合員が他の組合員を殺したる場合には殺人者は先づ被害者の血族關係者に謝罪し、次にギルドに對しては八磅の罰金を納めねばならぬ。万一此義務を果さなければギルドから除名されてしまふのである。又一組合員が他の組合員に侮辱を加へたる時罰せられることはアボッツブリーやエクセーターのギルドの場合と同樣である。右の外他人の財產に損害を及ぼした時の規定、相互補助に關する規定などもあるが之は省畧する。

以上三つのギルドに就いて述べた所に依つて知らるる如くにギルドの本質とも云ふべきものは相互保護救濟、兄弟分關係特にケンブリッヂギルドの場合に於ては組合員の連帶責任などの點にある。だ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

から后世發達せる商人ギルド、工業ギルド並びに勞働組合など時代の變遷に從つて其目的や規則が變つていつたに不拘此本質は依然として繼續されてゐるのである。

ブレンタノは更に論を進めて前に記したヴィルダの說即ち獨乙民族の臨時又は定期に開かれたる宴會からギルドが發生したとの說を紹介し、之に反對して曰くギルドは組合員が色々の方法で相互に助合ひ、維持し合ふ爲めに兄弟分關係によりて結びつけられたる團體である。之はギルドの本質であるに不拘ヴィルダは此點に關して何等論ずる所なきは遺憾である。而して此關係を明かにせざる限りヴィルダ氏の說に贊成することは出來ぬのであると。

次にブ氏は家族生活の狀態を述べてゐるが、彼はワイツ（Waitz, Deutsche Verfassungs-Geschichte, Zweite Auflage Kiel, 1865）及ラッペンベルグ（Lappenberg, Geschichte Von England, 1834）などの歷史家の說く所をよく了解すれば昔の家族生活の中に后世生じたるギルドの萠芽を見ることが出來るとなしてゐる。昔の人々は欲望が極めて單純であつたから一切の欲望の充足は家族生活から得られたのであつて、家族全體が其各々の家族員に對しては出來る丈欲望を充足し、滿足を與へる樣に努力したのであつた。其一例を擧ぐれば若し家族の中に無禮を受けたり、傷付けられたり、或は病氣に罹り貧困に陷りたりした者があれば家族一同は大いに同情し出來る丈の手助け補助をなして精神的にも物質的にも彼を慰め、彼が滿足の得られる樣にしてやつたのである。又家族の中で殺害せられた者があれば

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

其復讎をなし、盜難にかかれば犯人を探索して被害品を回復し犯人を處罰するのは勿論、家族は出來る丈平和を維推せねばならぬといふ精神からお互が契約をなして假令紛爭が起つても裁判所などへ訴へ出ることを止めて家族内で何とかして仲裁和解の勞をとり平和な結末をつける樣にしたのである。之に反して家族員は各々自己の家名を重んじ權利を尊重し万一にも婦女子にして不倫の行爲ありたる時は妻たると娘たるとを問はず嚴罰に處したのである。以上は家族内部に關することであるが社會に對しては家族の爲したる行爲については全員が其責任を負つたのである。例へば一家族員が殺人罪を犯して贖殺金 Wergild on Blood money を支拂はねばならぬ時は家族全員の責任で支拂義務を完了したのである。此贖殺金支拂制度は古代の慣習たりし復讐の制度に代つて起つたもので大體から見れば宗教ギルド、商人ギルドなどにも存し、又各國のギルドにも存じてゐた(Brentano. Ibid. p. Cii) 斯の如くに家族全体は其一人の爲したる行爲に付いて責任を負ふの結果として各員が正義の觀念を有し背德行爲をなすことが少くなつたのは當然のことである。而し又一方から考へれば苟くも血縁關係の存する限り、其關係が如何に薄くなつても常に責任を負ふといふことはあまりに責任を負ふべき範圍が廣きに失するのであるから、後世になると其責任者は近親者のみに限られる樣になつたのである。

以上の如くブ氏は英國の古きギルドと古代の家族生活とを比較研究して遂にギルドは家族から發生せりと斷定したのである。家族生活に於ては其家族員の間に兄弟分的精神は最もよく表はれ各員は最

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

も親密なるが故に相互に助け合ふことも殆んど完全に出來、從つて各員の欲望も充分に充足されるのであるが、時代の進むにつれて家族の人數も多くなり欲望の種類も加はり其質も精選せられる樣になつたので昔の樣に家族生活丈では欲望を完全に充足することが出來なくなつたのみならず家族員の中に利益の衝突さへ生ずる樣になり、爲めに家族員を堅くつないでゐる兄弟分的精神に弛みを來したので人々は或は國家の力をかりて家族生活での不滿不足を充たし或は此目的を達せんが爲めに人爲的に特殊團体即ちギルドを組織し其力を借りて欲望を充足せんとするに至つたのは自然の道行きである。此點から考へても家族はギルドの起源であることがわかり、家族生活の中にギルドの本質がよく表はれてゐるのである。ヴ氏もギルドを「家族の模倣者」"Imitators of the family"と言つて置き乍ら(Wilda,a.a.O.S. 56—58.130.132) ギルドの源を此所に見出し得なかつたのは寧ろ驚くの外はないと冷評してゐる

ブ氏は更に論歩を進めて政治上及宗敎上の目的と家族生活との關係を述べて曰く政治上の利益は專ら國家が與へてゐたのであるから家族團體として特に此方面の利益獲得に努めなくともよかつたから之は別問題としても古代人が最も重要であると信じ、或る意味に於ては國民全體の仕事であると迄に考へられてゐた宗敎生活に關して家族內に何等の規定が定められて居らぬといふことは注意すべき事柄である。ゲルマン民族は早くから定住して居たから家庭と家庭との關係も密接であり、共同生活の實を擧げるにも好都合であつたから隣人相集つて組合を作り、宗敎上の利益を享受獲得せんとつとめ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

たのである。而して當時の家族(家族員の意に非ずして家庭の意)は原則としては各々獨立して生活單位の一團體として活動し、物質的利益を追求する爲めには家と家との間には相當激しい競爭も起つてゐたけれども、併しながら漸く人々が只家族を本位として考ふるに利益の外に共同生活を本位とする社會的利益なるものがあり、而も後者が甚だ大なる意義あることを悟る様になつた。特に人と神とは合一せしむべきが理想であるが如何にすれば此理想を實現することが出來るかといふ問題には當時の人々は相當に考へさせられたのであるが、結局此大問題は個人の力はあまりに弱いから個人單獨では解き得るものではないことを知り、玆に組合を作つて共々に此問題を解き、共々に神を崇拜することになつたのである。之れ一種の宗教組合 Religious association or Religus gild で中世紀に於ける組合には之に屬するものが甚だ多いのである。(Brentano, pp. lxx-lxxi 及 pp. lxxxi-xcii)

ブレンタノガヴィルダの起源說に反對したことは既に述べた所であるがハルトウイグも亦ヴ氏のギルドは僧侶の集合体に其源を發すとの說には服し難きとなし、古代文明國民の間には既にギルド類似團體も存在してゐた史實があり、特にローマ人の間には埋葬組合 Burial societies も作られてゐたと論じ更に右の如き宗教に關するギルドは僧侶を中心として作られてゐたけれども、如斯宗教的目的以外にも或は慈善的目的の爲めに又は强者に對抗するといふ目的の爲めにも組合が組織されてゐたと論じて居る。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

[illegible]ブ氏の見る所に依ればキリスト教が北方諸國に傳播して來た時には既に此地方には異教徒の組合が發達してゐたのであつたが、キリスト教徒が這入つて來た爲めに在來の異教徒固有の風俗習慣等が打破せられ、キリスト教徒のギルドと異教徒のギルドとは互に戰つたのであつたがキリスト教徒が勢力を得るに從つて、異教徒に反對に勢力を失ひ、遂にキリスト教徒本位のギルドが全盛を極むる樣になつたのであつて、決して此地方には古くからギルドが存在してゐなかつたといふのではない。既に前に述べた樣に異教徒の間にては個人が各々の欲望を充足する爲めにはあまりに力弱きを知つて、その目的を達せんが爲めにはどうしてもギルドを作つて互に助け合はねばならぬとの趣旨に基づいて遠い昔からギルドを作つてゐたのである。

ブレンタノはギルドが家族より發生したといふ新説を樹立した外に英國がギルドの發生地であつて同國に於ては古くより其發達を見た。其實証は倫敦條令 The Judicia Civitatis Lundoniae, The statutes of London に現れてゐるとなしてゐる。右の條令からみると倫敦市内及其附近にあつた多くのギルドが一つの大きいギルドに結合してしまつて、從來よりも、より以上に平和を維持し暴行特に竊盜、勢力強き家族の横暴を防ぎ、國法遵奉を勵行したのであるが特に竊盜に關する取締が嚴重であつたので此種のギルドを「竊盜に對する保險組合」"Assurance companies against theft" と呼ぶ者さへあつた位であつた。此ギルドに屬する組合員は、盜賊があらはれた時には之を追跡逮捕する義務があり、被害

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

者は組合の基金から損害の塡補を受ける權利があつたのである。而して此組合でも毎月會合して宴會を開き其席上で共同の利害問題、規則の制定、改廢等に關して研究討議をなし、御馳走が殘れば之を貧民に施與したのである。若し組合員中死せる者ある時は、其聖靈の爲めに麵麭を祭壇に供へ讃美歌を歌ひ、祈りをなしたことは當時の他のギルドと同樣であつて、之と同樣の目的で作られたギルドはカンターブリーにもあつて仲々勢力を振つてゐた。

英國に於ては此種のギルドは漸次普及し、國法上に於ても認められて居つた計りでなく八、九世紀頃には既に其組織を完成し都市發展上貢献する所が大であつたのであるが大陸諸國にありては國法に依つてギルドが禁止せられるものが多かつた。シャールマン大帝Charlemagne及其後繼者の如きは法令を發布してギルドを禁止し、之を犯してギルドを作る者は或は笞刑に處し又は切鼻刑Nose-slitting流刑等に處したのである。然らば何故ギルドを壓迫し、攻擊したか、一つはギルドの墮落を矯正せんが爲めであり、他は專制君主の威力を示さんが爲めである。即ち大陸に於ける僧侶のギルドでは宴會に飮酒する結果泥醉して亂暴な行爲をするものが多くありたるが如き、又寄附を强要する風のあつたが如きギルド墮落の實例であるが然し之等はギルド禁止の主要なる原因ではなくて寧ろシャールマン大帝などの壓迫者をして壓迫の口實理由となさしめたもので、眞の理由は中央集權の國家を作り上げて思ふ儘に專制政治の實を擧げんが爲めであつた。だから之に妨げをなすギルドを壓迫したのは勿論自

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

由民でも貴族でも苟も彼の活動に妨げとなつたものは容赦なく壓迫したのであつた。然しながら一人の專制君主が暴威を振はんが爲に多數の民衆が犧牲となり何時迄も沈默を守らねばならぬ筈はない。年の經過と共に民衆の力を增し皇帝に反抗してギルドを組織し自らを守らんとする者の出て來たのは當然と言ふべきである。特にシーザーCaesarの死後世の中が不安になりノルマン人の侵入によつて各地が荒されるといふ時代になつては人々は從來持つてゐた自由を失ふといふことよりも寧ろギルドを組織して自らを守ると同時に權利を主張するの必要に迫られたのである。この後に於ても國王とギルドの間に軋轢紛爭はあつたけれども、遂にギルドは國法上に認めらるるに至り後世產業上最も重要な地位を占めた商人ギルド、工業ギルドとして發達するに至つたのである。之れよりさき獨逸に於てはヘンリー一世Henry Ⅰはギルドが都市の發達に必要なることを知つてギルド奬勵策を講じた程であつた。ノルウエーに於ても英國に於ても同樣の策を採つて其發達を圖ると共に之を利用して一般公衆を益せんと努めたのである。

之を要するに家族はギルドの本源である。少くともギルドの原型として現れたものである。既に述べた樣に古代に於ては家族は經濟生活の單位であつて家族員の欲望はすべて家族內で充足せられたのであるから、他に組合を作つて欲望を充足する必要はなかつたのであるが家族の人數が增し其欲望の增加精選せられる樣になつたのに家族の活動が之に伴はなかつた爲めに、今や家族丈では家族員の欲

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

望を悉くは充足する事が出來なくなつたので之が爲めに人々は從來の自然的、血族的團體たる家族生活丈では滿足し得られなくなり、家族の互助的精神も弛み出した。茲に於て人爲的地域的團體たるギルドを組織するに至つたのである。だから人々の欲望の變化するにつれてギルドの目的も亦變つたのは勿論であるが、それにも不拘ギルドの根本精神である所の相互保護救濟共同一致の精神は一貫して存在してゐるのである。尙ほ茲に一言すべきは當時のギルドは現代の組合、會社などの如く單に資本的物質的團體ではなくて、精神的團體であることである。(L. Brentano. Ibid. pp. lxv—lxxx)

三、グロスのキリスト敎起源説

グロス Charles Gross はギルド研究家として前述のヴイルダ、ブレンタノ、スミス等と並び稱せらるる學者であつて、彼は一八八三年ゲッチングゲン大學に學位論文として「ギルダメルカトリア」Gilda Mercatoria, Göttingen, 1883 を提出して有名となつた。而して歸國後も引續き史學研究と共にギルドの研究を捨てず、右論文に更に古文書の蒐集檢討を重ねて研究を進め、遂に一八九〇年二卷よりなる大著述を完成した。不朽の名著「商人ギドル」The Gild Merchant, Oxford 1890 即ち之である。第一卷に於てはギルド及都市の研究をなし、第二卷に於てはギルド及都市に關する特許狀、法令、條例、規則などを各方面より多數蒐集して收めてゐる。彼が第一卷序文に言つてゐる所によれば「ギルダメル

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

カトリア」の方は主として印刷物より其材料を採つたので未だつくさざる所もあるが「商人ギルド」の方は手寫の古文書に其材料を採り、ギルド及都市制度發展の研究上に一大光明を投じたもので其古文書は倫敦の英國博物館 British Museum 公記錄保存所 Public Record Office 古文書圖書館 Library of the Society of Antiquaries 其他の圖書館及ロンドンを始め地方都市例へばアンドーヴァー Andover、ブリストル Bristol、チチエスター Chichester、エクセーター Exeter、ギルドフオード Guildford、イプスウキッチ Ipswich、キングスリン King's Lynn、レスター Leicester、サザンプトン Southampton、トツトネス Totnes 等の記錄保存所から材料を集めたのであつた。如斯次第であるから其收めらるる所は何れも實物に就て調べたものであるが故に極めて價値多きものと信ずるのであつて本書も亦ギルド研究者の必ず一讀すべきであると思ふ。特に第一卷末には更に深く究めんとする者の爲めに參行書が詳細に著者アルハベツト順に列擧されてゐるのも亦吾々を益することが大である。

扨て今ギルドの起源に關する彼の意見を本書に就て見るに彼は先づブレンタノが英國に於けるギルド發展の狀態を研究せる第一人者たることを賞揚し續いてブ氏の説の大要を照介し (C. Gross. Ibid. p. p. 167—169) 之を遠慮なく批評し以て自己の立場を明かにせんと努めてゐる。今グ氏の意見の大要を摘出すればブレンタノはグロス及ハルトウイグ兩氏の所説が彼の説と相反するに不拘之を充分に駁論しないのは何故であるか。苟も自説を立て之に反對意見の存する限り先づ之を批判辯駁し打破しな

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ければならぬ。然るにブ氏が敢て此擧に出でざりしは蓋し彼が兩氏の説を潤色して以て自説となしたのではあるまいか。ブ氏がキリスト敎はギルドの起源に重大なる關係を有してゐると説いてゐるのは正當であると考へるけれどもギルドが家族より出てたりとなす説には服することは出來ないのであるとて先づブ氏の結論に反對し、進んで其反對理由を述べてゐる。即ち古代の血族團体 Kin-bond, Meagth が消滅すると共に漸次新制度が發生して、血族團体の地位を奪ひ、人々に新しき欲望を與へたのである。マルク團体、莊園制度、ギルド制度、僧侶團体、武士階級などが新しく生れ出で之等の上に國家があつた。思ふに血族團体の消滅といふことは右述べたる新制度の起る原因ではなくて、其起るべき機會を與へたに過ぎぬ。かく言へばとて決して家族とギルドとの關係を全然認めぬといふのではなく、寧ろ兩者には密接な關係のあることは信じてゐるのではあるが然し如斯關係は單に此兩者に限るのではなくて家族とマルク團体以下の諸團体とも同樣な關係があるのであるから、ブ氏の如くギルドが家族より出てたとなすなれば他の諸團体も亦家族から出たとの結論に達しなければならなくなるが之は史實に反するのである。故にギルドが家族より出たとなすは誤りであると斷定しブ氏の所説に一大鐵槌を下したのである。更にギルドと家族とは同一に非ざる旨を述べて曰く「ギルドと家族とは理論上異る。即ちギルドは任意的、人爲的團体たるに反し家族は自然的、血族的團体である。(C. Gross. Ibid. p. 169. Note)

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

次にブ氏が英國をギルドの發生地となすは全く根據なき説で只想像に過ぎぬとなし、從つて此點に於ても亦服し難しと述べてゐる。若しブレンタノの説くが如くギルドが家族より生れ而も其發生地が英國であるとするなれば、英國に於ては少くとも大陸諸國に於けるよりも早く家族團体が崩壞し消滅して居らねばならぬ。然るに事實は之に反し英國に於ける血縁團体たる家族團体は大陸のそれに較べて遲く迄存續してゐる。而して此事實を認むるなればギルドは英國に於けるよりも却つて大陸に於て早く發生したとの結論に到達せねばならぬことになつてブ氏の説は自ら打破られてしまふのである。ブ氏がギルドは英國に於てアングロサクソン時代に非常に發達してゐるといふのは全然誤謬であるとは言へぬけれども事實以上に甚だしく誇張して述べられてゐることは確である。英國國王イン Ine 及アルフレッド Alfred 時代に出された法律の中にゲギルダン Gegildan なる語があるが此語はギルドの組合員 Gild-brethren の意味であつてかかる言葉がある以上英國が大陸諸國よりも早くからギルドが存在してゐた證據であると一般學者は唱へてゐるのであるがグ氏は之に贊せずしてゲギルダンなる語が眞の組合員を意味するや否やは疑問であり從つて如斯言葉があるからといつて其時代に既にギルドが存在してゐたとも考ふることは出來ないと說いてゐる。彼はアングロサクソンのギルドに關する記事は九世紀以前にはないと斷言してゐるのであるから英國を以てギルドの發生地となさぬことは明かである。彼によればギルドに關する記錄は英國に於けるよりも却つて大陸の方に早くから現れてゐた。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

即ち大陸に於ては既に八世紀詳しく言へば七七九年にギルドに關する記事があるのに英國では前述せる如く九世紀に這入つてから初めて其記事を發見し得るのである。(C. Gross, Ibid. pp. 169. 175)勿論大陸に於ける古きギルドの數々は其規則を英國のそれに範をとり或は其儘英國から輸入されてはゐるが之丈の事實を以てギルド其ものが英國に發生したと斷言するのは早計と言はねばならぬ。又十一世紀に入りて英國ではギルドが非常に普及し發達したのは事實であるがそれは英國々王の勢力が弱かつたのと、丁抹人が英國に侵入して來た結果であつて之を以て英國がギルドの發生地であるといふ主張の證據とはならぬのである。(Gross. Ibid.p. 175)

ブ氏はアングロサクソンギルド Anglo-Saxon gild と都市及ギルドの規則 Gild Law と都市の規則 town Law とは同一であつて後者は前者から發展して來たものであると說いてゐるが此點についてもグ氏は反對してゐる。グ氏はブ氏の說が正しきや否やを確める爲めに色々研究したのであるが彼が滿足する樣な確證を握ることが出來なかつたのでブ氏に對して攻擊の矢を強く放つて曰く「ブ氏が自說を主張するに足る丈の確實なる書類なくして如斯重要なる問題に關して斷言したとて吾々の受入れることの出來ぬのは勿論、如斯斷言は爲すべきではないと信ずるのである」(C.Gross. Ibid. p. 170)と。彼は學者的態度を眞面目に表はしてゐる。

更に彼はヴイルダの議論を評して曰く「ヴ氏の說には誤謬は多いけれども而しながら彼がキリスト

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

敎がギルドの起源に關係を有する(Wilda. Gildenwesen, s.25—34.63)と說いてゐるのは正しい見解である」と賛意を表はしてゐる。而しヴ氏のギルドが異敎徒の鄕飮酒の俗から發したとなす說にはハルトウイッグ及パッペンハイム Pappenheim と同樣に反對してゐるが其理由とする所は要するに鄕飮酒の俗は中世紀のギルドの本質を缺いてゐる。特に兄弟分的連帶の精神、協同的組織、相互保護救濟の義務等の本質を缺いてゐる許りでなく、其會合は血族者間の狹い範圍に限られるか又は廣く一般の來會者に公開されるか其何れかで而も一時的のもので決して限定的の權利義務を有する永續的の性質を有するものではなかつたとなしてゐる。此點はブ氏のヴ氏に對する反對理由と略々同樣である。又一部の學者が說く樣にローマのコレギア Collegia とも異つてゐる。ギルドが任意的に作られたのに反しコレギアはローマ政府が勞働者を强制して作らしめた所謂一種の强制組合で宗敎、慈善といふ樣な事柄は其特徵ではないのである。然るにギルドは其發生より消滅に至る迄終始一貫して宗敎的要素を含んでゐるのであるから、あらゆる種類のギルドには宗敎ギルドを包含してゐると見てもよいのであるとギルドとキリスト敎的要素との關係を非常に重要視し而も所々で此點を高唱してゐる點より考ふればグ氏がギルドの起源に關し明瞭に述べてゐないに不拘ギルドはキリスト敎より生れたものであると信じてゐたのではないかと思ふので私は彼の說をキリスト敎起源說と假りに名附けたのである。